

第9回総合イノベーション戦略推進会議議事録

1. 日時 令和3年4月27日(火) 7:15～7:31

2. 場所 総理官邸2階小ホール

3. 出席者

議長	加藤 勝信	内閣官房長官
議長代理	井上 信治	内閣府特命担当大臣(科学技術政策)
副議長	小此木八郎	内閣府特命担当大臣(海洋政策)
構成員	武田 良太	総務大臣 (新谷正義 総務副大臣代理出席)
同	上川 陽子	法務大臣
同	茂木 敏充	外務大臣 (鷲尾英一郎 外務大臣政務官代理出席)
同	麻生 太郎	財務大臣
同	萩生田光一	文部科学大臣
同	田村 憲久	厚生労働大臣 (山本博司 厚生労働副大臣代理出席)
同	野上浩太郎	農林水産大臣
同	梶山 弘志	経済産業大臣
同	赤羽 一嘉	国土交通大臣
同	小泉進次郎	環境大臣
同	岸 信夫	防衛大臣
同	平沢 勝栄	復興大臣
同	河野 太郎	行政改革担当大臣
同	坂本 哲志	一億総活躍担当大臣
同	西村 康稔	経済再生担当大臣 (和田義明 内閣府大臣政務官代理出席)
同	平井 卓也	デジタル改革担当大臣
同	丸川 珠代	東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 担当大臣
	坂井 学	内閣官房副長官
	岡田 直樹	内閣官房副長官
	杉田 和博	内閣官房副長官
	和泉 洋人	内閣総理大臣補佐官

4. 議題

- (1) 研究インテグリティについて
- (2) 安全・安心に関するシンクタンク機能について

- (3) 公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方について
- (4) マテリアル革新力強化戦略について
- (5) その他

5 . 資料一覧

- 資料 1 - 1 研究活動の国際化、オープン化に伴う新たなリスクに対する研究インテグリティの確保に係る対応方針（案）（概要）
- 資料 1 - 2 研究活動の国際化、オープン化に伴う新たなリスクに対する研究インテグリティの確保に係る政府としての対応方針（案）
- 資料 2 - 1 安全・安心に関するシンクタンク機能について
- 資料 2 - 2 国及び国民の安全・安心の確保に向けた科学技術の活用に必要なシンクタンク機能に関する検討結果報告書（概要）
- 資料 2 - 3 国及び国民の安全・安心の確保に向けた科学技術の活用に必要なシンクタンク機能に関する検討結果報告書
- 資料 3 - 1 公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方（案）（概要）
- 資料 3 - 2 公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方（案）
- 資料 4 - 1 マテリアル革新力強化戦略（案）（概要）
- 資料 4 - 2 マテリアル革新力強化戦略（案）
- 資料 5 - 1 「イノベーション政策強化推進チームの設置について」の一部改正について（案）
- 資料 5 - 2 「イノベーション政策強化推進のための有識者会議の設置について」の一部改正について（案）

6 . 議事

【井上科学技術政策担当大臣】

只今より第 9 回統合イノベーション戦略推進会議を開会いたします。

それでは議事に入ります。

一つ目の議題は、「研究インテグリティについて」です。資料 1 - 1 に沿って説明いたします。

1 ページを御覧ください。研究活動の国際化、オープン化に伴い、国益を損なう技術流出などの懸念が顕在化しています。研究者・研究機関に透明性と説明責任を求め、安心して国際共同研究を進められる研究環境を構築していくことが必要です。

2 ページを御覧ください。このような状況を踏まえ、研究者自身による適切な情報開示、大学や研究機関等における適切なリスクマネジメントの強化、公的資金配分機関における申請時の確認を進めていくため、競争的研究資金に関するガイドラインの年内早期の改定を含む、政府としての対応方針案をまとめましたので、本会議での御了承をお願いいたします。

次に、二つ目の議題は、「安全・安心に関するシンクタンク機能について」です。資料 2 - 1 に沿って説明いたします。

1 ページを御覧ください。量子や A I などの先端技術は、国民生活の利益に資する一方、利用の仕方によっては脅威にもなり得ることから、政府からの課題設定に基づき、高度な知見による調査・分析を行い、政策を提言するシンクタンク機能の必要性が高まっています。

2 ページを御覧ください。このため、今年度から新たなシンクタンク機能を立ち上げ、2 年後の 2023 年度を目途に組織を設立する計画です。政府のニーズに対応し、着実に活動するためには、課題設定での関係府省庁の連携が不可欠ですので、御協力をお願いします。

次に、三つ目の議題は、「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的考え方について」です。資料 3 - 1 に沿って説明いたします。

1 ページを御覧ください。デジタル技術の進展により、研究開発におけるデータの重要性が高まっています。そのため、基本的な考え方を取りまとめました。具体的には、公的資金による全ての研究データに関する情報を、研究データ基盤システムに収載し、産学官のユーザが検索・利活用できるようにします。今般、このような基本的な考え方を決定したいと思いますので、各省庁の御協力をお願いします。

次に、四つ目の議題は、「マテリアル革新力強化戦略について」です。資料 4 - 1 に沿って説明いたします。

1 ページを御覧ください。マテリアル分野は、我が国が優位性を有する分野ですが、近年、国際競争が熾烈になっています。

2 ページを御覧ください。このため、マテリアル分野を更に強化するための戦略案を産学官の有識者で検討してきました。具体的には、革新的なマテリアルの開発と迅速な社会実装、データ駆動型の研究開発の促進、資源制約の克服や人材育成等の国際競争力の持続的強化、この 3 点に取り組むこととしています。本戦略案を国家戦略として決定し、国際競争力の強化につなげたいと考えております。

それでは、関係大臣から御発言をいただきたいと思います。

時間も限られておりますので、簡潔にお願いいたします。

まず、萩生田文部科学大臣、お願いします。

【萩生田文部科学大臣】

世界秩序が大きく変化する中、我が国として、研究インテグリティの確保や、マテリアル革新力の強化等を通じ、科学技術・イノベーションの強化を図ることは喫緊の課題です。

研究インテグリティの確保については、本対応方針を踏まえ、所管の大学・国研等においてマネジメントが強化されるよう速やかに周知・連絡を行うとともに、関係者に丁寧に説明を行ってまいります。あわせて、競争的研究資金に関するガイドラインの改定に内閣府と協力して取り組みます。

安全・安心分野に関するシンクタンク機能の構築には、我が国全体として関係府省や様々な機関が連携していくことが重要です。文部科学省としては、これまでに蓄積した科学技術分野に関する調査分析の知見をいかし、情報共有や人材交流等に協力してまいります。

公的資金による研究データの管理・利活用については、オープンサイエンスの推進に向けて、SINET や研究データ基盤等の整備・強化に取り組むとともに、本考え方を大学等に周知し、研究データの適切な管理・利活用を促してまいります。

また、国外の機関や留学生の関与が疑われるサイバー攻撃の事案も報告されていることを踏まえ、引き続き大学をはじめとする所管法人に対し、情報セキュリティの十分な確保を求めてまいります。

マテリアル革新力強化戦略が、AI、バイオ、量子技術、環境に続く、政府全体の重要戦略

の一つとして決定されたことは大変意義深く、今後、脱炭素化や資源制約の克服などの社会課題の解決に向けて、取組を加速することが重要です。

文部科学省としては、大学等の先端的な共用設備から創出されたデータを各機関の枠組みを越えて共有・活用する仕組み作りや、データを活用して革新的な材料を開発し迅速な社会実装につなげることを目指すプロジェクトを本格的に進めてまいります。

以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に梶山経済産業大臣、お願いします。

【梶山経済産業大臣】

温暖化など世界的課題を乗り越え成長につなげていく鍵はイノベーションです。

一方、研究活動の国際化に伴う技術流出リスクが顕在化をしています。経済産業省としては、大学・研究機関による利益相反管理や技術流出対策の徹底を通じて国内外から信頼される研究環境の構築に貢献してまいります。

また、科学技術の発展に伴い、先端技術が国民生活等にとって脅威とも利益ともなる状況が生じています。経済産業省は、安全・安心に関するシンクタンク機能立ち上げに向け、NEDO等の知見もいかしながら貢献してまいります。

今回、重要戦略の一つに、カーボンニュートラルなどに直結するマテリアル革新力強化戦略が加わります。我が国が強みを有するマテリアル分野の競争力を維持、強化するために、データを活用した革新的製造プロセス技術の開発等に取り組んでまいります。

いずれも、関係省庁と連携して取り組んでまいります。

以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に上川法務大臣、お願いします。

【上川法務大臣】

公安調査庁では、経済安全保障の観点から、機微な技術・データの流出対策等に資する情報収集・分析を実施し、政府関係機関をはじめ、企業や大学等に対し、必要な情報提供・発信等を行っているところ、新たにシンクタンク機能が立ち上がった際には、積極的な意見交換等、緊密に連携していきたいと考えております。

以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に小泉環境大臣、お願いします。

【小泉環境大臣】

菅総理は、2050年カーボンニュートラルの実現、更にその途中となる2030年度の温室効果ガス46%削減と50%の高みに向けた挑戦を続けることを宣言されました。

その実現には、サーキュラー・エコノミーへの移行が不可欠です。このサーキュラー・エコノミーが、今般のマテリアル革新力強化戦略においても位置付けられました。

今国会に提出したプラスチック資源循環法案は、初めてプラスチックという物質に着目した画期的な法律です。同法律の成立に全力を尽くし、プラスチック製品の設計・製造から使用後の処理までのライフサイクル全体での資源循環の取組を促進していきます。

更に、脱炭素社会に不可欠な太陽光発電、電池、モーターなどに含まれる希少な資源についてもリサイクルを進めることで、資源に乏しい国ではなく、都市鉱山大国を目指していきます。以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に岸防衛大臣、お願いします。

【岸防衛大臣】

今日、民間において科学技術が急速に進展しており、国家の安全保障の在り方を根本から変えつつあるものと認識しています。こうした中、我が国の優れた科学技術をいかし、政府全体として我が国の平和と安全確保につながる技術基盤を強化することがこれまで以上に重要となっています。

新たな領域に関する技術や、人工知能等のゲーム・チェンジャーとなり得る最先端技術をはじめとする重要技術に対して、選択と集中による重点的な投資を行うためには、これらの技術に関する情報を適切に調査・分析することが必要です。

こうしたことから、防衛省においては、本年4月1日に、防衛装備庁の組織改編を行い、革新技术リサーチ・ワーキンググループを設置いたしました。今後、革新技术の調査分析を推し進めてまいります。

防衛省としては、安全・安心に関するシンクタンク機能と連携を図ることで、先進技術の効果的な育成に努めてまいります。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に鷲尾外務副大臣、お願いします。

【鷲尾外務副大臣】

研究インテグリティや安全・安心に関するシンクタンク機能といった本日の議論にも表れているとおり、科学技術・イノベーションの役割は、経済面のみならず、安全保障面でもますます重要になっています。また、感染症対策や気候変動等の地球規模課題に対応する上での鍵でもあります。

これまでに外務省として、外務大臣科学技術顧問及び科学技術外交推進会議を設置し、地球規模課題の解決に貢献するような提言・助言活動や、我が国の科学技術・イノベーションの強みを踏まえた対外発信を含む科学技術外交を展開してきています。

今後とも、安全保障の観点も踏まえつつ、科学技術外交を一層推進し、国際社会でリーダーシップを発揮し、有志国との連携を強化していく所存であり、引き続き関係府省とも連携して取組を進めてまいります。

【井上科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは、「研究インテグリティの確保に係る政府としての対応方針」、「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」及び「マテリアル革新力強化戦略」について、原案のとおり了承してよろしいでしょうか。

(異議なし)

【井上科学技術政策担当大臣】

原案のとおり了承いただきました。

また、その他の議題として、資料5 - 1及び5 - 2のとおり、4月1日より内閣府に新設された科学技術・イノベーション推進事務局が本会議の庶務を担当することになったこと等に伴う関係規程の改正を予定しておりますが、御異議がなければ、案のとおり決定をいたします。

(異議なし)

それでは、最後に、加藤官房長官より御挨拶をいただきたいと思います。プレスが入室しますので、お待ちください。

(プレス 入室)

【井上科学技術政策担当大臣】

それでは、加藤官房長官、お願いします。

【加藤官房長官】

本日は、科学技術・イノベーション政策に関して議論し、3件の決定と1件の進捗報告を行いました。

第一に、「研究インテグリティの確保に係る対応方針」を決定いたしました。研究活動の国際化、オープン化が進む中、研究活動の透明性の確保によって、安心して国際共同研究を進められる研究環境を構築していけるよう、各大臣は、本日決定した政府方針に掲げられた取組について、所管する関係機関とよく連携をしながら、着実に進めていただきたいと思います。

第二に、「安全・安心に関するシンクタンク機能」についての進捗報告がありました。量子やAIなどの先端技術は、コンピュータの処理能力の飛躍的な向上、強固なセキュリティの暗号技術の実用化など、将来の経済・社会に変革をもたらすことが期待される一方、悪用された場合には、情報漏洩や詐欺などの犯罪ツールとして、国民生活の脅威となる可能性があります。

政府からの課題設定に基づき、科学技術に係る高度な知見に基づく調査・分析・研究活動を行い、政策を提言する新たなシンクタンク機能について、科学技術担当大臣は、関係大臣と連携し、今年度前半に立ち上げ、着実に活動できるよう準備を進めてください。

第三に、「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」を決定いた

しました。政府として、昨年度から研究データの管理・利活用を目的とした基盤システムの本格運用を開始いたしました。

各大臣は、所管の大学・研究機関において、本システムを活用した研究データの検索・利活用の仕組みを導入し、公的資金による研究開発に関するデータについては、本システムに登録させるようお願いをいたします。

第四に、「マテリアル革新力強化戦略」を決定いたしました。産業競争力の強化のみならず、経済安全保障や気候変動問題への対応にも不可欠なマテリアルについて、我が国が引き続き優位性を確保できるよう、科学技術担当大臣は、経済産業大臣、文部科学大臣とともに、政府と産学の有識者による一層の議論と連携を進め、本戦略に基づく取組を着実に実施してください。以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

では、プレスの方は御退室ください。

(プレス 退室)

【井上科学技術政策担当大臣】

本日の議事は以上です。

本日の資料及び議事録は公表させていただきます。

以上で会議を終了します。ありがとうございました。